

## 登場人物

花雨子（はなあめこ） 花家の長女。  
 夢雨子（ゆめあめこ） 羊人間となつた花雨子。  
 土雨子（つちあめこ） 羊人間となつた花雨子。  
 形（かたち） 花家の長男。雨子の兄。  
 風野（かぜの） 花家の次男。雨子の弟。

カゼノ（かぜの） 羊人間となつた花雨子の息子。  
 明（あきら） 雨子の婚約者。  
 村（むら） 風野の恋人。

## 一場

明 なれるといいね

花 なれるよ お月さまの上だもの  
 明 実感がまだわいてなくて

月面。花雨子と明が立つてて。二人の首根っこには機械が取り付けられていて、その機械からチューブが一本伸びていて。チューブは曲がりくねつて、二人の足元の「薄い膜発生装置」に繋がつていて。そう、一人には今、身体の形を沿うようにして「薄い膜」が発生しており、それによつて月面でも地球と同じ環境で生きていられるのだ。花雨子と明は薄い膜発生装置をちようど一緒に眺めている。ちょうど、こんなちっぽけな機械で生かされている不思議に思いをはせている。この世のものとは思えないほど広がつていて星空の下、いつもとおんなじにお互いが隣にいくれる不思議に思いをはせている。花雨子は、どこまでも続いている月の砂漠を、自分たちの住んでいた街、川沿いの、二人のお気に入りの散歩道と重ねてうたつてみた。無理な想像だった。明は、かすれがすれの花雨子の歌を聞いて、自分のと、花雨子のチューブを薄い膜発生装置から抜いた。

花 小さい頃から読んでたの お父さんの日記 私たちと一緒にで 死ぬ前にこうやつてお月さまに来て お月さまのホテルに泊まつて お月さまの海に立つたつて お父さんとお母さん 明日いなくなることなんかそつちのけでホテルの味付けに文句を言つていたんだつて  
 明 そう

花 でも死んだんだよ 次の日にきちんと  
 明 僕たちも きちんと

明 明 明日死ぬよ  
 花 地球  
 明 うん

花 こうやつて見ると 地球もきれいだね  
 明 そらだね

花 あんなに小さいとこに私たち住んでいたんだね

花 明日だよ  
 明 うん  
 花 せつかち  
 明 予行練習だよ  
 花 練習つてそれだけだよ チューブを抜いて終わり  
 明 うん  
 花 羊人間になるんだよ

明 きれいだね

花 楽しかったね

明 楽しかったね

花 戻そつか

明 え

花 チューブ だつて予行練習でしょ今は

明 うん

花 明くん

明 うん

花 また明日

明 あれ

明 うん

明はチューブを接続しようとする。花雨子のものから。しかし、砂がかんだのか、チューブがうまく接続できない。

うまく接続できない。

明 あれ

明 え

明 うん

明 ちょっと待つてね

花 接続できないの

明 大丈夫だと思う

花 砂がかんでるんだよ

明 あこつちで試してみるね

花 そう

明 月の砂つて大きいんだよ粒々が

花 そう

チューブがうまく接続できない。

明 あれ おかしいな

明 あれ おかしいな

明 あれ うまく接続できない。

明 あれ うまく接続できない。

明 え ちょっと待つてね

明 え ちょっと

明 あれ え待つてねもうすぐだから接続できない。

明 あれ うまく接続できない。

明 あれ え待つてねもうすぐだから接続できない。

明 あれ

明 うん

明 ちょっと

明 え

明 うん

明 ちょっと待つてね

花 接続できないの

明 大丈夫だと思う

花 砂がかんでるんだよ

明 あこつちで試してみるね

花 そう

明 月の砂つて大きいんだよ粒々が

接続する穴を変えてみた。

花 予行練習じゃなくなつたね

村 え

明 もう少し

接続できない。

明と花雨子は見つめ合う。明から、花雨子の表情は地球からの逆光で見えない。だから明は、花雨子の背後に広がる満天の星空を見つめた。

明 いや え

接続できない。

二場

明 あれ 待つて

月のホテル。風野と村の部屋。風野は窓から外の景色を眺めている。村は、風野の発した一言に言葉を失つているところだった。

接続できない。

明 待つて

花雨子は笑つちやつた。明と思い出がおかしくて。

村 え

風野 すごいね お月さんて本当に何もないんだね

村 いや 風野くん なんて

風野 お月さんて何にもないねつて 見てみなよ窓の外

村 いや風野くんその前

風野 あの

村 うん

風野 死んだつて

村 お義姉さんが

明 え

花 大丈夫だよ

明 うん

村は、風野の表情から状況を読み取ろうとしたが、いつもおつて抜けんのかな

と同じ穏やかな風野であった。

村 結婚式まだだよ

風野 分かんないけど そういうことにしたんじやない

村 そういうことつて

風野 結婚式の前に死ぬことにしたんじやない

村 え本当に

風野 知らないけど

村 本当に亡くなつたの

風野 そうだよ え 僕言つたよね

村 うん聞いた

風野 雨姉ちゃん結婚式のあと結婚相手と死ぬんだよつて

村 明さんはどうなつたの

風野 明さんは生きてるつて

村 え なんで いやいいんだけど生きてていいんだけどえお義姉さんは

風野 だから死んだつて え俺言つたよね雨姉ちゃん結婚式のあと結婚相手と死ぬんだよつて

村 え死ぬっていうのは死ぬほどさびしくなるんだよってことじゃなくて

風野 うん

村 え死ぬっていうのは本当に死ぬって意味なの

風野 えごめん俺村やんの言つてること難しいかも

村 え全然難しくないよ 死ぬって心臓がとまるつてこと

つて意味

風野 え死ぬって他に何があるの

村 戸籍を消すとか

風野 そんなことしたら犯罪だよ

村 犯罪だよでもそんなこと言つたら死ぬのだつて犯罪でしょ

風野 えごめん俺村やんの言つてること難しいかも

村 え全然難しくないよ 死ぬのは法律に違反してるんじ

やないのって意味

風野 え

村 いや違反してないんだけどね

風野 うん

村 違反してないよ

風野 うん

村 してないけど えごめんね風野くん

風野 え

村 私うかれててごめんね

風野 いやいいよ

村 私ずっとうかれてたよね 初めてお月さんまで来てさ

お月さんのホテル泊まつてさ この部屋天井低いねだと  
か 値段高いわりに素つ気ないねとか私ずっとうかれて  
たよね

風野 いいようかれて

村 だつて結婚式だつて聞いてたからさ

風野 いいようかれて

村 うかれていいわけないでしょ人が死んでるのに

風野 いいんだつておめでたいことなんだからさ

村 みんなして私のこと貧乏人だつて馬鹿にしてたの初め  
てお月さん来た私のこと

村 うん

風野 死ぬってなんか違うよね

村 うん

風野 お月さんて砂しかないんだね

村 風野くんちはお金持ちでしょ

風野 俺んちが金持ちなのと村ちゃんちが貧乏なのは今関  
係ないでしょ

村 私んち貧乏じゃないよ

風野 村ちゃんちは貧乏じゃないんだけれどさ

村 え ちゃんと言つてよお義姉さん亡くなるんだつたら  
亡くなるんだつてさ

風野 村ちゃん

村 はい

風野 あの俺もそりだよ

風野 ちゃんと村ちゃんとおんなじように混乱してるよ今

村 うん

風野 だつて俺覚えてないくらい小つちやい頃にお母さん  
もお父さんも死んでずっと雨姉ちゃんがお母さんの代  
わりでさ それで電話でぱつと「死んだ」って聞かされて  
も俺もどうしたらいか分かんないよね 俺小つちやい  
頃からずっと結婚したら死ぬんだよって言われててさ  
俺もすっかりその気になつてたつもりだつたんだけどさ

村ちゃん

明  
いえ

形 僕ら兄妹はね ちいぢやな頃に両親を亡くしまして

明  
はい

月面。明と形からチユーブが伸びている。チユーブは薄い

膜発生装置に繋がっている。明は月の地平線を眺めている。形は月面に埋まっている「薄い膜発生装置」をいじつてい  
る。

明  
え  
形  
そ  
う  
か  
い  
は  
は

ここに砂が詰まつていてね

ホテルの人が言うには それで雨子のチューブの先つ  
ぽも壊れたんじやないかつて

すみません何から何まで

2

ホテルの人と連絡とか僕なんにも出来ないで

いいよそんな  
昨日の今日じゃ気持ちもどうにもなら  
ないでしょ

あの形さん

うん

すみませんでした

明  
くん

13

僕もまだいろいろ整理がつかないんだけれど でも  
とにかく とにかくです 本当にありがとう 雨子のわ  
が今までこんなお月さんまで来てくれて

5

明  
え

明は右手をゆるめた。形はその手をさらに力強く握った。

明  
あのつけていいですか

形  
お義兄さんでよ  
明  
はい

形  
まだだよ

形  
うん

形  
家族の手で 薄い膜発生装置から

明  
え

明  
なんで外すんですか

形  
まだよく分からいいんだ

形  
お義兄さん

形  
雨子がどう いう状態だったのか知りたいんだ

明  
でもそろそろチューブつけないと薄い膜剥がれちゃいますよ

形  
は納得した表情を見せた。

形  
危ないですよ

明  
もう少しだから

形  
まだつけて

形  
少しだけだから 家族だろう

明  
いやもうつけますね

形  
はい

明  
まだだつて

明  
は、薄い膜発生装置から形のチューブを抜く。

形  
は月面の、地平線の向こうを見る。満天の星空がきれい  
なのか面白い映像なのかよく分からいい。

明  
危ないですよ

明  
薄い膜剥がれちゃいますよ

明  
外しましたけど

明  
あのつけますねチューブ

形  
うん

明  
待つてくれよまだ分かっていないんだ

明  
どうですか

明  
でももう危ないですよ

形  
まだ薄い膜残ってるんだから

明  
まだよく分からいいんだよ

形  
まだよく分からいいな

明  
だから薄い膜あるうちにチューブつけないと危ないですよ

形  
うん

明  
すよ

明  
いいんだよ明くん

明  
え形さん何がしたいんですか

形  
いいんだよ明くん

明  
お義兄さん何がしたいんですか

形  
よく分からいいんだよ

明  
よく分からいいんだよ

形  
明くん

明  
は形のチューブを薄い膜発生装置に取り付ける。

明  
は月面の、地平線の向こうを見る。遠くに見える山が、  
遠いのか近いのかよく分からない。

明  
は形のチューブを薄い膜発生装置に取り付ける。

明  
明くん

明  
は形のチューブを薄い膜発生装置に取り付ける。

明は、動かなくなつた花雨子の思い出を見て、その場にくずおれた。形は明に寄り添い、明のチューブを薄い膜発生装置に取り付けた。

四場

形 ちょっと明くん

明 あの それはずるいと思ひます

明は、自分のチューブを薄い膜発生装置から外した。

形 羊人間を信じてるかい  
明 え

明 はい 雨子は僕の心の中で生まれ変わります

形 羊人間だよ

明 はい 雨子は僕の心の中で生まれ変わった。

形 羊人間だよ

明 お義兄さんは僕を恨んでるんですよ 僕が雨子にしだのと同じことをお義兄さんに繰り返させて僕が苦しむところを見たいんですね

形 心の中とかそんなんじやないよ

明 お義兄さんは僕を恨んでるんですよ 僕が雨子にしだのと同じことをお義兄さんに繰り返させて僕が苦しむところを見たいんですね

月のホテルの裏の丘。夢雨子が仰向に寝ていて。傍らに土雨子が立つて、夢雨子の顔をじつと見ている。二人は、頭にアンテナをついている。夢雨子は目を開けた。

夢 羊人間でみんなそなうの

土 そうよ 私たち二人になつちやつたよ

夢 あなたも雨子ちゃん

土 そう

夢 あなたも雨子ちゃん

土 うん

夢 あなたも雨子ちゃん

土 あなたも

夢 あなたも

土 うん

夢 あなたも雨子ちゃん

土 あなたも

夢 あなたも

土 うん

夢 あなたも

土 あなたも

夢 あなたも

土 あなたも

夢 あなたも

土 あなたも

夢 あなたも

土 あなたも

夢 あなたも

土 分かんない 初めてなつたから

夢 そうだよね

土 とりあえずあなたも私も指は五本ずつあるよ

夢 え

土 よくあるでしょ 一人の人間を部分部分で分けてあ

なた右手の親指で私右手の人差し指でつて

夢 あんまりないと思うよ

土 あなた全部ついてたよ 私全部ある 目とか鼻の穴とか

夢 あるよ

土 鼻毛とか

夢 え鼻毛全部あるか分かるの

土 数えて数えて

夢 いいよ

土 あはあは

夢 ちょっと動かないでよ

土 だつて本気で数えてるんだもん

夢 えちょっと横になつて横になつて

土 なんでなんで

夢 光が鼻の穴の中入らないんだよ

土 雨子は心を振り絞つて笑つた。夢雨子が、もう一人の自

土 そんなこと私に聞かないで

自分が私の鼻毛をどうにかしようとしている。土雨子はちょっと必死になつてもう一人の自分の邪魔をした。ちょっとと必死になつて笑つた。夢雨子は笑おうとしているもう一人の自分をちょっと必死になつて月の地面に押し付けた。土雨子の顔をじつと見つめると、もう一人の自分が手を伸ばして私の顔を指先でシヽシヽ撫でた。

夢 雨子 自分のことでしょう  
土 雨子 自分のことでしょう  
夢 どうするこれから  
土 一緒に会いに行こうか

夢 二人で行くの

土 え

夢 二人で行くの

土 え

夢 わたしはなにがしたかったんだろう。

土 顔とか 生きてた頃こんなんだつた  
夢 あなたも違うよ

土 やつぱりそう

夢 きれいな鼻毛

土 どうするこれから

夢 わたしはなにがしたかったんだろう。

土 どうするこれから

夢 わたしはなにがしたかったんだろう。

夢 あの人死んだかな

土 死んでないよチューブ繋げたんだから

夢 どうして

土 え

夢 どうしてチューブを繋げたの

土 そんなこと私に聞かないで

夢 雨子 自分のことでしょう  
土 雨子 自分のことでしょう  
夢 どうするこれから  
土 一緒に会いに行こうか

夢 雨子 自分のことでしょう  
土 雨子 自分のことでしょう  
夢 どうするこれから  
土 一緒に会いに行こうか

夢 二人で行くの

土 え

夢 二人で行くの

土 え

夢 わたしはなにがしたかったんだろう。

土 じゃあじやんけんする

夢 絶対に会いたいでしょ

夢 じやんけんに負けたら

土 絶対に会わないと

夢 どうだね

土 私ちよき出す

夢 えひどい

土 私ちよき

夢 なんでそんなひどいこと言えるの

土 私絶対に会いたいの

夢 公平にしようよこういうの

土 私ちよき出す

夢 じゃあじゃんけんしない

土 えなんで

夢 キスして

土 え ブス

夢 もうどつちかしかないよ キスか 包丁で刺すか

土 え 私は刺すよ

夢 刺せないよ

土 なんでよ

夢 お腹の子 どっちにいると思う

土 え

夢雨子は、土雨子は、もう一人の自分が、月の地面と同じ  
顔色になったのを見た。

五場

土 ちょっと待つて一緒に言お

夢 うん

夢・土 ジゃんけんぱち

花 全然

風野 もう出発するんじゃないの

風野 はぐーを出した。土雨子はちよきを出した。二人は

自分の指先を見つめた。

土 いつてらっしゃい

夢 うん

土 大丈夫よ

夢 うん

風野 そう

花 風野はベランダが好きだね

風野 この家のものは大体好きだよ

花 私はほとんど嫌い

風野 そう

花 だけれどベランダは好き

風野 よかつたね俺がいて

花 お月さま行つてくるよ

風野 うん

花 信じられないね私

風野 うん

花 本当にお月さま行くんだね

風野 そうだね

花 飛行機より安全つて本当

風野 怖いの

花 静かだよ

風野 がいるから

花 私はほとんど嫌い

風野 そう

花 だれか月を覗いて

風野 うん

花 信じられないね私

風野 うん

花 本当にお月さま行くんだね

風野 そうだね

花 飛行機より安全つて本当

風野 怖いの

花 静かだよ

風野 がいるから

花 私はほとんど嫌い

風野 そう

花 だれか月を覗いて

風野 うん

花 信じられないね私

風野 うん

花 本当にお月さま行くんだね

風野 そうだね

花 飛行機より安全つて本当

風野 怖いの

花 静かだよ

風野 がいるから

花 私はほとんど嫌い

風野 そう

花 だれか月を覗いて

風野 うん

花 信じられないね私

風野 うん

花 本当にお月さま行くんだね

風野 そうだね

花 飛行機より安全つて本当

風野 怖いの

花 静かだよ

風野 がいるから

花 私はほとんど嫌い

風野 そう

花 だれか月を覗いて

風野 うん

花 信じられないね私

風野 うん

花 本当にお月さま行くんだね

風野 そうだね

花 飛行機より安全つて本当

風野 怖いの

花 静かだよ

風野 がいるから

花 私はほとんど嫌い

風野 そう

花 だれか月を覗いて

風野 うん

花 信じられないね私

風野 うん

花 本当にお月さま行くんだね

風野 そうだね

花 飛行機より安全つて本当

風野 怖いの

花 静かだよ

風野 がいるから

花 私はほとんど嫌い

風野 そう

花 だれか月を覗いて

風野 うん

花 信じられないね私

風野 うん

花 本当にお月さま行くんだね

風野 そうだね

花 飛行機より安全つて本当

風野 怖いの

花 静かだよ

風野 がいるから

花 私はほとんど嫌い

風野 そう

花 だれか月を覗いて

風野 うん

花 信じられないね私

風野 うん

花 本当にお月さま行くんだね

風野 そうだね

花 飛行機より安全つて本当

風野 怖いの

花 静かだよ

風野 がいるから

花 私はほとんど嫌い

風野 そう

花 だれか月を覗いて

風野 うん

花 信じられないね私

風野 うん

花 本当にお月さま行くんだね

風野 そうだね

花 飛行機より安全つて本当

風野 怖いの

花 静かだよ

風野 がいるから

花 私はほとんど嫌い

風野 そう

花 だれか月を覗いて

風野 うん

花 信じられないね私

風野 うん

花 本当にお月さま行くんだね

風野 そうだね

花 飛行機より安全つて本当

風野 怖いの

花 静かだよ

風野 がいるから

花 私はほとんど嫌い

風野 そう

花 だれか月を覗いて

風野 うん

花 信じられないね私

風野 うん

花 本当にお月さま行くんだね

風野 そうだね

花 飛行機より安全つて本当

風野 怖いの

花 静かだよ

風野 がいるから

花 私はほとんど嫌い

風野 そう

花 だれか月を覗いて

風野 うん

花 信じられないね私

風野 うん

花 本当にお月さま行くんだね

風野 そうだね

花 飛行機より安全つて本当

風野 怖いの

花 静かだよ

風野 がいるから

花 私はほとんど嫌い

風野 そう

花 だれか月を覗いて

風野 うん

花 信じられないね私

風野 うん

花 本当にお月さま行くんだね

風野 そうだね

花 飛行機より安全つて本当

風野 怖いの

花 静かだよ

風野 がいるから

花 私はほとんど嫌い

風野 そう

花 だれか月を覗いて

風野 うん

花 信じられないね私

風野 うん

花 本当にお月さま行くんだね

風野 そうだね

花 飛行機より安全つて本当

風野 怖いの

花 静かだよ

風野 がいるから

花 私はほとんど嫌い

風野 そう

花 だれか月を覗いて

風野 うん

花 信じられないね私

風野 うん

花 本当にお月さま行くんだね

風野 そうだね

花 飛行機より安全つて本当

風野 怖いの

花 静かだよ

風野 がいるから

花 私はほとんど嫌い

風野 そう

花 だれか月を覗いて

風野 うん

花 信じられないね私

風野 うん

花 本当にお月さま行くんだね

風野 そうだね

花 飛行機より安全つて本当

風野 怖いの

花 静かだよ

風野 がいるから

花 私はほとんど嫌い

風野 そう

花 だれか月を覗いて

風野 うん

花 信じられないね私

風野 うん

花 本当にお月さま行くんだね

風野 そうだね

花 飛行機より安全つて本当

風野 怖いの

花 静かだよ

風野 がいるから

花 私はほとんど嫌い

風野 そう

花 だれか月を覗いて

風野 うん

花 信じられないね私

風野 うん

花 本当にお月さま行くんだね

風野 そうだね

花 飛行機より安全つて本当

風野 怖いの

花 静かだよ

風野 がいるから

花 私はほとんど嫌い

風野 そう

花 だれか月を覗いて

風野 うん

花 信じられないね私

風野 うん

花 本当にお月さま行くんだね

風野 そうだね

花 飛行機より安全つて本当

風野 怖いの

花 静かだよ

風野 がいるから

花 私はほとんど嫌い

風野 そう

花 だれか月を覗いて

風野 うん

花 信じられないね私

風野 うん

花 本当にお月さま行くんだね

風野 そうだね

花 飛行機より安全つて本当

風野 怖いの

花 静かだよ

風野 がいるから

花 私はほとんど嫌い

風野 そう

花 だれか月を覗いて

風野 うん

花 信じられないね私

風野 うん

花 本当にお月さま行くんだね

風野 そうだね

花 飛行機より安全つて本当

風野 怖いの

花

花 すごく静か

風野 うん

花 風野もしんとしているの 分かるでしよう

村 そうなの

風野 うん

花 私に結婚してほしくないでしよう

村 脳みそどろどろになつたらどんな気持ちになるんだろ

風野 う

花 してほしいよ

風野 はかりしれないね

花 そうなの

風野 俺はこの静かな感じ好きなんだ

花 風野

花 風野

花 風野

花 風野

花 「お母さん」て言つてみて

花 え

花 最期に「お母さん」て言つてみて

花 うん

月のホテル。風野は地下の一室にいた。その部屋の真ん中には冷たくなつた花雨子が寝かされていた。風野の傍には村が立つていた。

風野 だから幸せのてっぺんの時に凍らせるんだよ

村 幸せになつたんなら生きてこうってなるんじやない

風野 幸せになつたんなら いつまでこれが続くんだろう

風野 うん

風野 俺この静かな感じが好きなんだよ

村 ごめん

風野 なんでかな

村 私正直に言つていい

風野 うん

風野 本当に死んでる

村 お顔きれいだね

風野 お月さんだときれいなままにしやすいんだつて

村 ばい菌とかいなさそうだもんね

村 私たちもおんなんじことするの

風野 でも脳みそはどろどろになつちやつてるんだよ

村 うん

風野 死んだら死んでも脳みそだけは元に戻らないんだよ

村 私はならないよ

風野 誰だつて死んだら羊人間になるんだよ

村 誰もならないよ

風野 村ちゃん

風野 うん

風野 風野くん

風野 うん

風野 どうして死んじやつたの

風野 幸せになつたからだよ

風野 少し静かにしよう

風野 うん

風野 村ちゃん

風野 私と風野くんが結婚したら私殺されるの

村 私はならないよ

風野 羊人間になるんだよ

風野 おんなんじことつて

村 私たちはおんなんじことするの

風野 え 今すぐつてこと

村 風野くんと地球帰る

風野 え風野つて俺

村 風野くんと地球帰る

風野 え風野つて俺だよ

村 私風野くんと帰るね

風野 僕今うんここにいるよ

村 風野くんと帰る

風野 僕も帰るよ

村 私風野くんと地球帰るよちやんと

村 風野くん

風野 帰るよ

村 風野くん

風野 帰るよ

村 風野くん

風野 帰るよ

村 風野くん

風野 ごめん 分かんないです

村 うん

風野 だから今晚は最高のえつちさせてください

村 いいよ

風野 無重力えつち

村 あるよ重力

村 風野くん

風野 帰るつて

村 風野くん  
が立つて  
いる。頭にアンテナがある。カゼノである。

村 風野くん  
帰るつて

カゼノ すみません

風野 はい

カゼノ どこの部屋にも誰もいなくて

風野 このホテル今日は僕たちだけなんですよ

カゼノ さびしいところですね

風野 お月さんの上ですから

カゼノ そうですか

風野 あの 頭に何か刺さつてますよ

カゼノ はい 羊人間ですから

風野 え

カゼノ はい 「カゼノ」といいます

風野 あれ

カゼノ はい

風野 あれ

村 風野くん

風野 村ちゃん 目が痛い

村 え

風野 あてて え 村ちゃん目が痛い

村 え 砂が入つたんじゃない

風野 砂が入つたのかな

村 ホテル病院行こうよ

風野 え 痛い痛い

村 ホテル病院行こうよ

カゼノ 村は風野に寄り添つて地下室を出た。カゼノはじつと見て  
いた。

明え 本当に雨子

夢 雨子じゃなかつたらどうする

夢 私のこと触つて

明は動かない。

夢 私 頬も身長も声も指先も脳みそも全部お月さまの砂  
で出来てるよ

明え うん

月のホテル。雨子と明の部屋。自動ドアが、ぶいん、ぶし  
ゅう。明が部屋に入ると、ベッドに夢雨子が座つていた。

夢 今までなにが雨子だったの

明 分かんないけど僕のこと今 ゆう すごいなんか 雨子っぽ  
く見ているよ

夢 ただいまって

明 うん

夢 ただいまって

明 うん

夢 地球で私が家に帰つて「ただいま」って言つてたでしょ  
う

明 うん

夢 うん

夢 雨子の深い思い出の中で私が「ただいま」って言うと  
明くんは「うん」を2018回と「おかえり」を603回

と「遅かつたね」を89回と「早かつたね」を20回とそ  
の他をちょうど300回返してくれたの

明え 立つてみて

夢 うん

明え うん

夢 雨子、立つ。

夢 ねえこつち来て

明え うん

夢 動くよここにいるんだから

夢 やっぱり私化け物  
明 そうじゃないよ  
夢 じゃあこつち来て  
明 なんか僕 裏切られたように感じてて いや 裏切ら  
れたとかそんなんじやないって分かつてるんだけれど  
裏切られたとかじやないんだけれど あの 僕 裏切ら  
れたよね

夢 裏切つてないよ

明 ジャあ僕はなんで生きてるの

夢 え  
明 なんで僕のチューブだけ繫がつてたの 僕あの時僕の  
チューブも外したよね 雨子のが壊れて繫がらなくなつ  
て予行練習じやくなつて

夢 え 私もよく覚えてないあの時のこと

明 挨拶の回数は覚えているのに

夢 私は明くんがチューブ外してくれて嬉しかつた

明 じゃあなんで僕が気がついた時にチューブが繫がつて  
たの

夢 あの

明 うん

夢 覚えてない

明 じゃあ本当の雨子に聞いてきてほしい

明 觸つて本当だつたら雨子は本当になつちやうんだよね  
夢 え どういうこと  
明 僕もよく分かんないからちよつと死んでくるよ

夢 え 私雨子だよ

明 ねえ 雨子は今どこにいるの

夢 え 明くん 喧嘩しないでおこう

明 喧嘩してないよ

夢 怖い顔やめてよ

明 僕ちよつと死んでくるよ

夢 なんでもちよつと死なないで

明 ちよつと死んで本当の雨子を探してくるよ

夢 ねえ触つて

明 觸つてどうするの

夢 觸つたら私のこと本当だつて分かるよ

明 僕がびびつてふるえてたからそれで雨子は僕のチューブ繋ぎなおしてくれたんだもんね

夢 違うよ触つてお願ひ

明 こんな情けない奴と一緒に死にたくなかったんだよね

夢 そんなことない私一緒に死にたかったんだよね  
明 僕ちよつと死んでくるよ

夢 私も分かんないんだよ気づいたらホテルの裏にいて

全部本当にそこにあるもののかどうかだから触つて

ほしい

明 觸つて本当だつたら雨子は本当になつちやうんだよね

明は部屋を出る。自動ドアがぶいん、ぶしゅう。夢雨子はもう一度、ドアの開く音を待つた。

明 僕もよく分かんないからちよつと死んでくるよ

夢 じゃあ私アンテナちぎるね  
明 え なんで

夢 でもアンテナやめて明くんは

明 ちよつと死んでくるよ  
夢 (アンテナを引っ張り) わたたたたいわたたたたいわたたたいわ

明 なになにがしたいんだよ  
夢 出て行かないで

明 雨子にしか

明 なになにがしたいんだよ  
夢 触つて

明 雨子  
土 お兄ちゃん

形 雨子  
土 私雨子に見える

形 分からぬけれど

土 今名前を呼んだ

形 だつて 分からぬけれど

土 私いつの間にかお月さまのホテルの前に立つてたの

どうしていいか分からなくて それでお兄ちゃんの部屋に来たの

夢 私この部屋で待つて

七場

月のホテル。形の部屋。自動ドアが、ぶいん、ぶしゅう。形が戻ると、形のベッドの上に土雨子が座っていた。形と目があった。二人は背筋を張った。

明 だつて 分からぬけれど

明は夢雨子をじっと見た。

夢 触るだけでいいの  
明 雨子にしか

形 なんで僕の部屋なんだよ  
土 お礼がしたくなつたのよ お兄ちゃん  
形 うん

土 お父さんのように 私をここまで育ててくれてありがとう  
う お月さままで連れてきてくれてありがとう  
形 お前 本当にこれでよかつたのか  
土 私今幸せよ

形 嘘を言つて いるね  
土 なんで  
形 お前が今本当に幸せを感じてるならお前は絶対に明くんの部屋に行くよ でも僕の部屋を選んだということは幸せじやない何かがこの部屋にあるんだよ  
土 どういうこと  
形 なんで結婚式をせずに死んだんだよ  
土 あれは事故よ

形 ちいぢやい頃から今まで僕はずつとずつとお前の幸せばっかりを求めてきたんだよ お月さんに来るのだってこのお月さんのホテルを貸し切りにするのだってお前ものすごいお金がかかっているんだよ いやお金の話じやないことは分かつてているんだよ でも敢えてだよだって僕らはもう実家も土地も全部売つぱらつちやつて兄妹の思い出一つ引つ提げてここまでやつて來たんだよ それをお前は台無しにしたんだよ  
土 そうよ  
形 そうよ そうよつてなんだい

土 お兄ちゃん 私一人いるの  
形 んえ  
土 羊人間の雨子が二人になつちやつたのよ  
形 え どういうこと  
土 明くんともう一人 私 一緒に死んでほしい人がいた  
形 え  
土 私 もうすぐお月さまの裏側へ行くの  
形 どうして  
土 羊人間になれば分かるわ 地球つて眩しいのよ  
形 あんな 眩しいことないよあんな小さいの 眩しいことないよあんな丸いの 小さいの  
土 小さくて もう私の帰れない場所  
形 雨子はなんで僕の部屋に來た  
土 聞きたい  
形 聞きたい  
土 じゃんけんで負けたの  
八場

土 雨子 お兄ちゃんの左手だけ好き 右手が風野で左手が雨子 ねえ覚えてる 夏の日 三人で手を繋いだまま畠の上に横になつて お父さんのエアコンを最強にして寝るの 誰にも怒られない夕暮れの青  
形 あの  
土 うん  
形 ごめんよ

土 雨子 お兄ちゃんの左手だけ好き 右手が風野で左手が雨子 ねえ覚えてる 夏の日 三人で手を繋いだまま畠の上に横になつて お父さんのエアコンを最強にして寝るの 誰にも怒られない夕暮れの青  
形 あの  
土 うん  
形 ごめんよ

土 雨子は形の左腕を持ち、腕から手の甲、指先を少しづつ撫でていく。

花 風野 あ 人妻  
花 まだ人妻じやない  
風野 明さんと喧嘩したの  
花 なんで

風野 こっちに帰つてくるなんて珍しいじゃん

花 風野はベランダが好きだね

風野 この家のものは大体好きだよ

花 私はほとんど嫌い

風野 うん

花 でもベランダにいる風野は好き

風野 浮気しに来たの

花 私 風野とだけ秘密を作りたいのよ

風野 明さんと作りなよ

花 明くんとは赤ちゃんが出来たからいいの

風野 え

花 そうよ

花 結婚して 羊人間になるの私たち

風野 明さんは何て言つてるの

花 行くよ

風野 行くの

花 結婚して 羊人間になるの私たち

風野 明さんは何て言つてるの

花 言つてない

風野 え 赤ちゃんのこと

花 言つてないよ

風野 そりや そうか

花 秘密はここからでね

花 え まだ秘密じやなかつたの

花 私この子にとびきりの名前を考えたの

風野 うん

花 カゼノ

風野 え

花 カゼノつていうんだよ

風野 なんで

花 この名前 本当は私がほしかったの たまらなくほしきつたんだよ お母さんがカゼノつて呼ぶ時に眩しくらいに嬉しそうにしていて 私嫉妬してたの

花 雨姉ちゃん

花 なに

花 お腹の子 誰の子なの

花 明くん

風野 明さんの子だつたらお月さんへ行かないと思うよ

花 姉ちゃんは

花 行くよ

風野 うん

カゼノ あの 握手をしてくれませんか

風野 うん

風野は手を差し出す。カゼノは恐る恐るそれに触れる。

月のホテル。風野と村の部屋。風野はベッドに横になつて

いる。両方の目に一つずつ、大きな絆創膏を貼つて

村はその傍らに付き添つて。カゼノも近くで見守つて

いる。

カゼノ すごい ベとべとしてる

風野 失礼だね

カゼノ え ベとべとしてたら失礼なんですか

風野 ベとべとしてる人に向かってベとべとしてるって言うのが失礼

カゼノ そうか 大変ですね

風野 なにが

カゼノ なんか 生きるのって だつて 絶対ベとべとするのに 生きてたら

風野 カゼノはさらさらしてるね

カゼノ 俺はお月さまの砂で出来ていますから

風野から返事はない。

カゼノ 風野さん

カゼノ 羊人間だからって何か特別な力があるわけじゃないですか

カゼノ 地球人間とおんなじですから  
村 お父さんは  
カゼノ お父さんは

村 え 風野くん

村は動搖し、風野に寄る。風野からかすかに寝息が聞こえる。

カゼノ 眠つたんですよ

村 あの

カゼノ はい

村 はい

カゼノ だから本当に俺別に風野さんに何かしようだと  
か思ってないですから

村 違うの

カゼノ え あ

カゼノ え

村 私はあなたの名前がどうして「カゼノ」なのか聞いたんだよ

カゼノ それは 分からないです

村 どうして

カゼノ お母さんがつけてくれた名前ですから

村 お父さんは

カゼノ え

村 お父さんはあなたが「カゼノ」だと知ってるの

カゼノ お父さんは

村 うん

カゼノ 知らないです

村 どうして

カゼノ え

村 赤ちゃんのお名前って 二人で決めるものじゃない

カゼノ 僮分かりません

村 あなたのお父さんは誰なの

カゼノ 俺 風野さんと同じカゼノって名前ですけどこの

カゼノ 僕分かりません

村 思い出遺伝子を見て知っているんでしよう

カゼノ 僕分かりません赤ちゃんですから

村 ねえ本当のことを言つてよ私だけ置いてけぼりなの分かるでしよう

カゼノ ごめんなさい

村 あなたが謝ることじゃないの赤ちゃんなんだから

カゼノ ごめんなさい

村 私はあなたに赤ちゃんらしく純粹な言葉を口にしなさいって言つてているの

カゼノ 僕だつて置いてけぼりなんです

村 置いてけぼりなのは私だけです

カゼノ 僕も置いてけぼりに入れてください

村 私だけです置いてけぼりなのは

カゼノ 地球人間で怖い人間ですね

村 なにを

カゼノ だつて俺はただ名前が「カゼノ」というだけなんです

村 おかしいよ怖いのはだつて羊人間の方でしよう なんの羊人間で

カゼノ 地球人間の死んだ後の形です

村 なんなのあなた達の兄弟 人間で死んだらね

カゼノ はい

村 死んだらそれで終わりなの

カゼノ それは違います

村 なんなのあなた達の兄弟

カゼノ それで終わりなら俺はなんなんです

村 私は地球へ帰る

カゼノ はい

村 風野くんときちゃんと地球へ帰る

カゼノ そうしてください

村 お願ひ

カゼノ え

村 風野くんのこときちんと地球帰してあげて

カゼノ 僕 盗んでないです風野さんのこと

村 風野くんの目を元に戻して

カゼノ 月の砂が目に入つたんだつてホテルのお医者も言ったたじやないです

村 うん

カゼノと村、目をあわせる。

カゼノ あの

村 うん

カゼノ あの 誤解していませんか羊人間のこと

村 だつて生まれたかったよね

カゼノ え

カゼノ お月さまじゃなくて地球で

カゼノ あの

カゼノ はい 来てくれませんか一緒に

村 うん

カゼノ 村さん

村 なに

カゼノ 僕も俺のこと何がしたいのか分かつてないんです  
だつて俺 赤ちゃんですよ なんかなんでこんななんか  
成長しきつた感じで羊人間になつちやつたのか俺も分か  
んないんですけどなんか納得は出来ないですよね ねえ  
納得出来ないですよね村さん

カゼノ はい多分

カゼノ え多分でなんだろう

カゼノ え多分でなんだろう

カゼノ だつて私そんなにいきなり成長したことないから

風野 むにやむにや カゼノ カゼノくん カゼノ カゼ  
ノちゃん カゼノちゃん

村は、風野をベッドに寝かせてあげて、

土 なに

土 分かんないけどもう死んじやつたし  
明 アンテナ見えてるよ

村 いいよ

カゼノ はい

村 いいよね 風野くん

明から見て、横たわっている花雨子の向こう側に、羊人間のアンテナだけがぴょっこり顔を出していた。

九場

土 なに突然こんな地下室まで来て

明 雨子死にたくなかつたの  
土 分かんない

明 雨子  
土 雨子って私の名前

明 なんでお月さんなんか来たんだよ  
土 明くんが僕も死ぬって言うからよ

明 うん  
土 ここで横になつて死んでる私の名前

明 雨子が死にたいって言ったからじやん

明 そうだよ  
土 なんで死んでるのに名前を呼んだの

明 生き返るかなと思つて  
土 生き返らないよ 脳みそどろどろだよ

明 そうだよ

明 雨子

明 生き返るかなと思つて  
土 死にたくないけど死ななきやいけない時があるのよ女

明 え 雨子

明 生き返るかなと思つて  
土 死にたくないけど死ななきやいけない時があるのよ女

明 嘘だよ

明 生き返らないよ 脳みそどろどろだよ  
土 男にはないんかよ

明 男にはないんかよ  
土 男にはないのよ間抜けだから

明 驚かせようと思つて  
土 なんで驚かせたいの

明 驚かせようと思つて  
土 明くんの間抜けな声が好きだつたから

明が後ろに立っていた。土雨子は明と顔を合わせていいのかも分からなくなつた。寝台の縁を右手の指でなぞつて、そろそろと、明から隠れるように、寝台の奥の方でうずくまつた。自分が何をしているのか分からなかつた。いつも明に言っていた「子どもっぽい自分」をとにかく心掛けたみた。

明 なんで驚かせたいの  
土 明くんの間抜けな声が好きだつたから  
明 好きだつたなんならんで僕も死なせてくれなかつたの

土 私が死にたくなかつたからよ

明は花雨子の身体ごしに土雨子を覗きこむ。土雨子は床に四つん這いになつて、明に顔を見せないようにする。

明 え 本当に

明 羊人間で分身するの

土 なんでこんなとこに来たの

明 雨子の顔が見たくなつて

土 あなたの部屋にも来たでしよう

明 来たけどうまく話せなかつたよ

土 下手くそでも一緒にいなきやだめじやない

明 雨子

土 うん

明 死にたくなかつたの

土 お願い 帰つて

明 僕の部屋今知らない雨子がいるんだよ

土 地球に帰つて

明 地球

土 地球

明 地球のどこ

土 地球の日本

明 地球の日本

土 地球の日本

明 地球の日本

土 地球の日本福井県

明 雨子の家だろ

土 私あなたが帰つてきてもいいようにお米炊いといった

明 お月さんと一緒に死ぬつて言つたのに  
土 お茶も沸かしちやつた

明 お茶もご飯も腐つてるだろ

土 私もうお月さま来る前から狂つちやつてたのよどうし

ていいか分かんないしもうチケットもとつちやつたしも  
う行くしかなかつたのよ私

明 じゃあなんで雨子だけ死んだんだよ

土 いきなりこんなところに来ちやだめじやない私あなた

にだけは会わないのでおこうつてそれだけしかなかつたの  
に それだけだつたのに お月さまにはホテルが一つだ

けしかなくつて 小つちやいホテル 小つちやいホテル  
だし明くんは間抜けだし もう死んじやおうよ あ明く

んは死なないで私だけ死んで あ私死んじやつたから明  
くんは死なないで私だけ死んじやつてもう私だけ死んじ

やつた

形 雨子

夢 うん

形 雨子だね

夢 そうだよ

形 歌がきこえてきたよ

夢 どんな歌

形 お前が幼稚園で覚えてきたやつ

夢 そう

形 はりきつてお母さんの前で歌つてたやつ

夢 そう

形 お月さんで歌うんだつてずっと練習してたやつ

夢 昔の話だよ

形 お母さんとお父さんことを思いだしていたんだろう

夢 私が歌つてたの

形 よく響くんだよ静かだから

月のホテル。雨子と明の部屋。自動ドアが、ぶいん、ぶいん  
ゆう。形が入つてくる。夢雨子がベッドに座つている。

十場

形 一人で部屋にいると死んでるのか生きてるのか分かん  
なくなるんだよ 窓の外は星と砂ばかりだしお前も死  
んでしまったし 誰も会いに来てくれる人なんていない  
し

夢 うそ

形 え

夢 私が来たでしょ

形 あ

夢 もう一人の私

形 うん

夢 逃げて来たんでしょ

形 あいつがね あいつが出て行つたんだよわけの分から  
ないことを言つて

夢 私が

形 あいつが お前が お前が出て行つたんだよ

夢 せつかくお兄ちゃんの部屋に行つたのに

形 お前はこの部屋にいる方がいいよ

夢 そう

形 明くんの部屋にいる方がすつきりするよ

夢 じゃあお兄ちゃんがこの部屋に来ちゃだめじゃない  
形 なんで一人なんだよ

夢 いいじゃない私のことなんか

形 せつかくお前明くんの部屋にいるのに

夢 この部屋のことは放つておいて

形 お母さんとお父さんを思い出していたんだろう 歌つ  
ている時のお前はいつも一人だよ

夢 お兄ちゃん

形 うん

夢 私歌つてないよ

形 え

夢 誰も歌なんて歌つてないよ

形 聞こえてきたよ僕の部屋まで

夢 だつたら狂つたんだよ

夢 お月さまのホテルが静かなのはね お月さまの砂が全  
部の音を吸つちやうからなんだよ

形 でも聞こえてきたよ

夢 だからお兄ちゃんのうずまきが自分でうたつてた  
のを聞いたんだよ

形 僕のうずまきってなんだい

夢 お兄ちゃんはもう誰にも会えないとことだよ

形 するいよ

夢 なにがよ

形 するいよ ひどいよ お前ら二人してさ するいよ  
ひどいよ 雨子も 風野も するいよ ひどいよ

夢 せつかく私たち二人に分かれてあげたのに

形 ずるいよお前も風野も  
夢 風野のなにがずるいのよ  
形 歌つてないんならもういいよ

形 は部屋を出る。自動ドアが、ぶいん、ぶしゅう。夢雨子、  
部屋の入口をじっと見つめている。形は廊下をつかつかと  
進む。花雨子の歌が聞こえてくる。形は戻る。雨子と明の  
部屋に入つてくる。自動ドアが、ぶいん、ぶしゅう。

形 ずるいよお前も風野も  
夢 風野のなにがずるいのよ  
形 歌つてないんならもういいよ

形 歌つてないんならもういいよ

形 は部屋を出る。自動ドアが、ぶいん、ぶしゅう。夢雨子、  
部屋の入口をじっと見つめている。やがて形が入つてくる。

自動ドアが、ぶいん、ぶしゅう。

形 アンテナって え これ この頭のやつ

形 やつぱり歌つて いるよ

形 こんなの ちぎれて どうなるんだよ

夢 歌つて ないよ

夢 お兄ちゃんが 一人にならなくなるよ

形 廊下に 出て みろ よお前 廊下に 出たら 聞こえる よお前 が  
この部屋で 歌つて いるのが

形 雨子 おい お前 雨子

花 ねえ

明 うん

夢雨子、廊下に 出る。自動ドアが、ぶいん、ぶしゅう。形  
は 一人部屋に 残される。しんとした部屋。形は 部屋を 出る。

自動ドアが、ぶいん、ぶしゅう。

夢雨子、形の 左手を 取り、自分の アンテナに そえる。

花 雨の 日の 魚つて どこに いる と思う  
明 え 川の 石の 裏だよ

夢 左手で ちぎつて

形 僕は、お前の 幸せだけを 願つて きたんだよ

花 石の 裏

形 だから お前 廊下に 出て 聞こえる わけ ない だろ う お前 部  
屋に い ない の にお前 部屋 の 中に い ない と 意味 が ない だ  
う

夢 おめでとう 私

明 うみぶどうの 裏とか  
花 うみぶどうは 海だよ

夢雨子、部屋に入る。自動ドアが、ぶいん。形も 一緒に 部  
屋に入る。ぶしゅう。

夢 お願い お兄ちゃん おめでとう 私

明 静かな ところに いる んだよ  
花 静かな ところ

形 ああ 水が 水が ほしい

形は、夢雨子の アンテナを 一 思いに ちぎる。夢雨子、「さら  
さらし やりさらら」と 身体が 欠け て い つて、砂に なつて 床  
に 散らばる。形は それを見 て、夢雨子の アンテナを 握りし  
めて、部屋を 出る。自動ドアが、ぶいん、ぶしゅう。

花 雨の 日の 魚は 世界の 裏側に いる のよ 人間が 見て いな  
い のを いい こと に

形 うん

夢 私の アンテナを ちぎつて

明 そう  
花 明くん

夢 おもいきり 引つ 張つ くれ ねばいいから

形 ちぎる

雨の日。地球。明と花雨子が川を見ている。ひとつだけ傘  
を さ して。



風野 いや

夢 風野

風野 え

土 風野

夢 風野

風野 なに

風野 なんだって

夢・土 風野

風野 あの

土 うん

風野 結婚式を挙げたらしいよ

土 え

風野 俺らのことなんか考えないで 明さんと一緒に

土 なんでそんなこと言うの

風野 雨姉ちゃんが迷子だからだよ

土 私迷子になつてるの

風野 そうだよだから俺に会いに来たんだよ

土 ベランダと一緒に

風野 ベランダと一緒にだよ

土 私明くんを殺していいの

風野 皆そのためにお月さんまで来たんだよ

土 明くんと結婚式していいの

風野 ここまで来てわがままを引っ込めなくていいんだよ

夢 でも明くん誰と結婚するの

風野 え

夢 風野

風野 え どういうこと

夢 風野

風野 雨姉ちゃんが結婚するのは

夢 雨

風野 え

夢 雨が降つてるよ

風野 お月さんに雨は降らないよ

夢 降つてるよ

風野 俺らのことなんか考えないで 明さんと一緒に

風野 雨野は雨が降つて、月のホテルにあたつていう音を聞く。

土 なんでもなんにも見えなくなつた風野は好き

土 私は大嫌い

風野 うん

土 でもなんにも見えなくなつた風野は好き

風野 うん

土 風野 雨姉ちゃん

風野 雨野

土 この静かな感じ好き

風野 え

夢 雨野

風野 うん

土 私と一緒に羊人間になりたい

風野 うん

土 私と一緒に行きたい

夢 風野はこたえない。

土 またお父さんのエアコン最強にして三人で寝そべるう

風野 よ

土 雨子は、風野の右手を握る。握つて、風野をホテルの秘

密の通路から外へ連れ出す。風野は雨にうたれた。

村 雨が降るんですか

村 はい

月のホテル。形は玄関扉の薄い膜ごしに外を眺めている。人差し指を薄い膜に押し当てる。人差し指は「ふにふに、ふにふに」と薄い膜の弾力で押し戻される。少し力を込めて人差し指を押し当てる。すると、「ふにふに、ずぶり」と、人差し指は薄い膜の向こうへ抜けた。形は人差し指を薄い膜から抜いて、見つめた。そこに、カゼノと村が来た。

形 でも気になつたんです 気になつて窓を覗き込んだつて小さいんですよ窓のやつ だから少しでも景色の見れるところへと思って そんな村さん

村 はい

形 お外に出ようとしたつて村さん チューブもつけないでほんのつま先だけでもお外に出てごらんなさいよ たまち警報が鳴つてホテルの怖い人に怒られちゃいますよ本当に危ない場所なんだからここは

村 警報鳴らなかつたですよね

形 お父さん

村 この子 雨子さんのお腹の中にいたんです

形 頭に何かささつてますよ  
カゼノ はい 羊人間ですから

形 そう どこに行こうとしてたのか  
カゼノ え

村 お兄さん人差し指だけ出しても

形 そうか

カゼノ はい

形 なんでこんな小さな玄関なんだろう  
村 薄い膜も節約しないといけませんから

形 大きくなつたね

カゼノ はい

形 こんなところつていうのは  
村 ここ ホテルの玄関ですから

形 あの

カゼノ はい

形 こんなところつていうのは  
村 ここ ホテルの玄関ですから

形 大きくなつたね あの

カゼノ はい

形 お外に出られたいのかなと思つて  
村 いや 雨が降つてるんじやないかって

形 あなた

カゼノ はい

形 あなた

カゼノ はい

形 いや 雨が降つてるんじやないかって  
村 え

形 大きくなつたね

形 もちろん勘違いですよそんなお月さんで雨だなんて  
村 え  
形 ふいに、カゼノに目を合わせた。

形 僕の部屋だけ窓が小さいんですよ 外の景色があんまり見れなくて

カゼノ はい

形 大きくなつたね

カゼノ はい

形 抱きかかえたいのにお前僕は

カゼノ はい

形 抱きかかえたいんだよお前僕は

カゼノ すみません

形 抱きかかえたいんだよ

カゼノ すみません成長してしまつて お父さん

形 うん

カゼノ 俺 お父さんに言いたいことがあるんです

形 うん

カゼノ 夢雨子のアンテナをカゼノに渡す。

形 これを

カゼノ 俺 お父さんに言いたいことがあるんです

形 うん

カゼノ 俺 お父さんが 明くんが どこかにいるから こ

形 これを

カゼノ 俺 お父さんが 明くんが どこかにいるから こ

形 うん

カゼノ 俺 お父さんが 明くんが どこかにいるから こ

形 行つといで

カゼノ はい さようなら

カゼノはホテルの中へ引き返す。村は残される。

村 はい

形 かぜのをお願いします

村 あの

形 うん

村 風野くん言ってました お月さんのホテルを貸し切りにするのは 誰が生きても誰が死んでもいいって契約を交わしたということなんですね

形 そうですよ

村 警報が鳴らないってそういうことですよね

形 え

村 あの子の名前です

形 うん

村 カゼノちゃんは誰の子なんですか

形 うん

村 カゼノちゃんは誰の子なんですか

形 うん

村 カゼノちゃん「お父さんに会いたい」って言つて真つ先

形 うん

村 にお兄さんの部屋に行つたんです

形 うん

村 にお兄さんの部屋に行つたんです

形 うん

村 うん

形 すみません ありがとうございます さようなら お月さんに来てからありがとうございます うは聞いたかな 聞いてないかな ありがとうございます まだ聞いてないな すみません ありがとうございます さようなら

形 すみません ありがとうございます さようなら お月さんに来てからありがとうございます うは聞いたかな 聞いてないかな ありがとうございます まだ聞いてないな すみません ありがとうございます さようなら

形 すみません ありがとうございます さようなら お月さんに来てからありがとうございます うは聞いたかな 聞いてないかな ありがとうございます まだ聞いてないな すみません ありがとうございます さようなら

形 すみません ありがとうございます さようなら お月さんに来てからありがとうございます うは聞いたかな 聞いてないかな ありがとうございます まだ聞いてないな すみません ありがとうございます さようなら

形 すみません ありがとうございます さようなら お月さんに来てからありがとうございます うは聞いたかな 聞いてないかな ありがとうございます まだ聞いてないな すみません ありがとうございます さようなら

形 すみません ありがとうございます さようなら お月さんに来てからありがとうございます うは聞いたかな 聞いてないかな ありがとうございます まだ聞いてないな すみません ありがとうございます さようなら

にはその音が、地球のどこかの音に聞こえた。ためしに形は、家のドアをひとつあけてみた。がちゃり。ぎい。ばたん。花雨子が待っていた。

#### 十四場

花雨子が笑っている。

花 おかえりなさい

形 なんだ 帰つてきてたのか

花 うん

形 勝手に人の部屋入るなよ

花 懐かしくなつて

形 小学生じゃないんだから

花 よくお父さんの日記この部屋で読んだね

形 お前だけだったよそんなの読むのは

花 私赤ちゃん生まれるよ

形 え

花 まだ形が出来たばかりだけれど でも私分かるよ

形 医者には見せたのか

花 お兄ちゃん 赤ちゃんが生まれたら私海へ行くの 明

いつの間にか傍らに、土雨子がいる。

くんが好きなの 春でも夏でも秋でも冬でも 私と明くんとこの子で砂浜を歩くの お昼間でも夕暮れでも夜中でも お兄ちゃん 私分かるの この子もきっと海を気に入るの だつて明くんの子なんだもの 晴れていれば

地球の海へ行くの 雨の日はお月さまの海へ行くの 私たち砂浜を歩けばたちまち両手がいっぱいに塞がるの 砂浜つて面白いきらきらしたガラスだかがそこかしこに落ちているの この子はきれいなものを見つけるのも上手なの だつて明くんの子なんだもの 私のことを見つけてくれたように すぐに面白いきらきらしたもので両手をいっぱいにしてお母さんに見せてくれるの ねえお兄ちゃん お母さんほら きらきらがきらきらして お兄ちゃん お母さんほら きらきらがきらきらして よつて ねえ お母さん きれいだよつて

形の部屋で、花雨子が笑っている。やわらかい午後三時の窓明かり。ふと床に目をやると、風野がだらしなく寝転がっている。どんな遊びをしたのか、両目に絆創膏をつけている。剥がす時に、また泣きわめくのが目に見えている。

#### 十五場

月のホテル。地下室。花雨子の死体のそばに明がいる。そこに、カゼノと村が来た。

土 風野

形 こんなお月さんの地面で寝てたら風邪ひくぞ 風野だけにね

風野は寝ている。絶対に聞いてるはずである。形は風野の尻をおもいきりはたく。土雨子は相変わらずい音を出すなあと、そこだけは形に感心している。そんな三人の兄弟の部屋を、花雨子が見つめている。花雨子はこの家を出た。明と最期をむかえるために。

形 なんだよ おい

風野 むにやむにや

村 あ

明 はい

村 すみません

明 どうしました

村 はい あの

風野は寝ている。

形 聞いてたのか おい 風野

カゼノ お母さんに会いに来ました

村 あ

明 お母さん

村 この子 雨子さんのお腹の中にいたんです

明 雨子の

カゼノ あの

明 うん

カゼノ これを

明 え

カゼノ これ

カゼノは、夢雨子のアンテナを明に渡す。

明 これ

カゼノ 明さんの部屋でお母さんが渡してくれました

明 そう

カゼノ お父さんに 俺のお父さんに渡してほしいって

明 うん

カゼノ あの

明 うん

カゼノ お父さん

明 いいよ

カゼノ え

明 本当は分かつてんんだろう

カゼノ はい

明 お前もしんどいね

カゼノ え

明 生まれたばかりでね

カゼノ はい

明 いきなりごちや混ぜの世界に放り出されてね

カゼノ 僕そんなものかと思ってました 生まれたばかり

カゼノ もうちょっときらきらしてて楽しいよ世界は

明 もうちょっときらきらしてて楽しいよ世界は

カゼノ 僕のことですか

明 そうだね 海はぎらぎらしててるね

カゼノ お母さんが言つてたんです 明さんは海が好きだ

明 つて

カゼノ お母さんも言つてました いつか俺を連れてつて

明 動物園も好きだよ 雨の日の川を歩くのもきれいだよ

カゼノ お母さんも言つてました いつか俺を連れてつて

明 くれるつて

明はポケットから口紅を出す。カゼノに渡す。

カゼノ え

カゼノは口紅を、ちよん、とだけひく。

カゼノ はい

カゼノは口紅を花雨子の唇にひこうとする。

カゼノ あの どういうふうにやればいいんですかこうい

明 え 村さん

明 え 村さん

明 こういうのつて 力加減とかどういう感じなの

明 え なんか 唇にそつとあてて ぐいです

明 え なんか 唇にそつとあてて ぐいです

明 え なんか 唇にそつとあてて ぐいです

明 ぐいなの

村 はい仕事行く前とかは

明 死んでるんだけど

村 あ はい ジやあ きれいだねつて気持ちでぐいです

明 気持ちでいいの

村 むしろ気持ちです

明 気持ちだつて

カゼノ あ はい

カゼノ あ はい

明 あなた

カゼノ はい

明 地球 行つてみる

カゼノ え

明 村さんと一緒に行つてみたらしいよ

カゼノ いいんですか

明 お月さんの港で待つておいで

カゼノ でもその前にお母さんに聞いてみないと

明 こういうのはお母さんに内緒で行くんだよ

カゼノ そうなんですか

明 男の子の冒険にお母さんは反対するように出来てるん

カゼノ だよ

カゼノ はい

明 見つかる前に行つていで

カゼノ あの お父さん

明 え

カゼノ お父さんです お父さん

明 うん

カゼノ 行つてきます

明 うん

カゼノ、出でいく。

明 羊人間で

村 はい

明 なんなんですかね

村 そうですね

明 村さん

村 はい

明 あの子のことお願いします

村 明さんは

明 はい

村 地球に帰らないんですか

明 はい

夢 うん

明 うん

夢 うん

明 うん

明の持つている夢雨子のアンテナが、少しふるえた。

十六場

明はアンテナを強く握る。

夢 もつとぎゅつて握つてみて

明 雨子

夢 私はここだよ

明 あなたの中

明 雨子

夢 うん

明 アンテナだけになつたの

明 ねえ

夢 うん

明 うん

夢 もつと強く握つてみて

明 こう

夢 うん

明 うん

夢 うん

明 うん

夢 げえ

明 え大丈夫

夢 すごく気持ちいいよ

明 そうなの

夢 だつて私の全部あなた一瞬で抱きしめてくれるんだよ

明 抱きしめてるというか握りしめているんだよ

夢 私 明くんにいてもらえてよかつた

明 するいよ雨子

夢 するいよ私は

明 僕も死にたいよ

夢 あなたが死んだら誰が私を抱きしめてくれるのよ

明 僕はどうしたらいいんだよ

夢・花 明くん

明 うん

夢 どうして生きるか死ぬかしか出来ないの

明 どうしてかな

夢・花 それなら私を探してみて

花 私川の底にいるわ

夢 川の底の削れた石の裏がわよ

花 うみぶどうの透明な向こうがわよ

明 そこは雨が降ってるね

花 雨が降っていて静かなところよ

夢 音の無い

花 静かなところで待ってるね

夢・土 私を探してみて

花 夏の日

夢 秋の日

花・土 冬の日

夢 春の日

夢・花・土 花の日

土 雪の日

夢・花・土 海の日

夢・土 雨の日

花 雨が降ればお月さまの海の中

夢・土 どうして生きるしか出来ないの

花 雨がやんだらお月さまが雲の上

夢・土 どうして死ぬしか出来ないの

花 私を探せばいいだけなのよ

夢・土 川の底の石の裏がわ

花 うみぶどうの透明な向こうがわ

夢・土 音の無い

花 ここは世界の裏がわね

土 音の無い

夢・土 貝殻の穴の向こうがわ

花 魚のお腹の黒のなか

土 音の無い

夢・土 私を探してみて

花 夏の日

夢 秋の日

夢・花 音の無い

夢 歌をうたつた私の家の

土・花 音の無い

夢・土 雨の沈んだ砂浜の

夢 音の無い

花 ねえ 誰が死んだの

夢雨子のアンテナがふわふわ浮いた。

夢 明くん 本当の雨子に会いたい

夢 それなら お月さまの裏側へ行こう

明 うん

夢 それなら お月さまの裏側へ行こう

明 そうだよ

夢 それなら お月さまの裏側へ行こう

明 どうだよ

夢 半年

明 携帯薄い膜発生装置もつかな

夢 簡単だよ

明 え

夢 薄い膜がなくなるまで歩いたらいよ それで 薄い  
膜なくなつたら なくなつた今まで歩けるここまで 歩

明 そうだね

夢 砂浜みたいに

明 砂浜みたいに

夢 砂浜みたいに

明 砂浜みたいに

村 風野くん 風野くん

月のホテル。村は風野を探している。

村 風野くん 風野くん 風野くん 風野くん

月面。風野と土雨子のそばへ、カゼノがやつて来る。

月面。風野と土雨子のそばへ、カゼノがやつて来る。

十七場

月面。風野が仰向けに倒れている。しゃがんで、風野の顔  
を覗き込むように佇んでいる土雨子。

カゼノ 風野さん

土 ねえ どつちだと思う

カゼノ え

土 これって寝てるのかな

カゼノ 分かんないです

土 カゼノ

風野 雨姉ちゃん  
土 うん

土 まだ死んでないよ 薄い膜がもうすぐ剥がれるところ  
だよ

カゼノ はい

土 どうしてお腹の中から出てきちゃったの

カゼノ え

土 私 あなたと一緒にお月さまの裏がわへ行きたかった  
のよ

風野 村ちゃんは  
土 うん

村 風野くん 地球へ帰ろう カゼノちゃんと一緒に 風  
野くん 風野くん

カゼノ 僕 お月さまの港へ行くんです

土 分かったよ

カゼノ 僕 地球で海を見るんです

村は部屋を出る。廊下は明るく、果てしなく伸びている。

風野は喋らなくなる。

カゼノ はい

土 ちゃんと準備運動をしてから泳いでね

カゼノ はい

土 いつてらっしやい

カゼノ お母さん

土 うん

カゼノ お父さんみたく 冒険を許してくれてありがとう

俺をお月さままで連れてきてくれてありがとう

形 うん  
土 お父さんのエアコン

形 うん

土 夏の日の 三人で手を繋いだまま畳の上に横になつて  
誰にも怒られない夕暮れの青

形 左手が雨子で右手が風野で

土 お兄ちゃん

形 うん

カゼノは、月の港へ駆けていく。土雨子はその後ろ姿をじ  
っと見る。そして、風野の横に寝転がる。

土 地球がきれいよ

土 カゼノ  
形 雨子

土雨子、はつとする。満天の星空から聴こえた気がした。

月のホテル。風野と村の部屋。村は自動ドアを開ける。ぶ  
いん、ぶしゅう。暗がりに、風野がいる。風野の頭にアン  
テナがついている。

風野 村ちゃん

村 うん

形 お月さんて本当に砂しかないんだね

土 そうよ

形 でも風が気持ちいいね

土 知らなかつたの

形 薄い膜のせいで気づかなかつたんだなずっと

土 覚えてる

風野 紋創膏もう取つていいのかな  
村 うん  
風野 あの  
村 うん  
風野 紋創膏もう取つていいのかな  
村 もう痛くない  
風野 多分  
村 多分でなに

おわり

風野は、村の声がきれいだと思う。

公演の記録

2020年8月14日(金)～16日(日)

「晴れがわ」

金沢21世紀美術館 シアター21

上演についてはコトリ会議までご連絡ください。

[kotorikaigi@gmail.com](mailto:kotorikaigi@gmail.com)